

杉の挿木養苗試験

熊本県林務部 東 鶴 人

本県の杉挿木苗の生産地阿蘇郡波野村に設定してある農林省指定の挿木杉苗養成施設苗畑内に於て次の要領により杉の挿木養苗試験を実施した。尚本試験に使用した挿木種は当地方に最も多く分布するアヤスギである。又苗畑地の土壤は火山灰を主とする塩礫土でこの地の年平均気温は 12.2°C 、年降水量 $2,410\text{mm}$ （阿蘇郡黒川村坊中にての観測である）。

(イ) 時期別挿付試験 2年生挿穂を用う。

挿付期 昭和25年 4月1日 5月1日 6月1日 7月1日 8月1日 計
本数 100 100 300 300 300 1,100

(ロ) 風土効果試験 2年生挿穂を用う。昭和25年3月下旬挿付

風土 1,000本 普通挿 1,000本 計 2,000本

(ハ) 穂の年令別比較試験。昭和25年3月下旬挿付

年令 1年生 2年生 3年生 計
本数 500 500 500 1,500

(イ)は昭和26年2月23日、(ロ)及び(ハ)は昭和25年12月19日に各区毎に50本宛掘取り、全重量、幹重量、根重量並に全長、幹長、根長を天々測定したが其結果(50本の平均)は次表の通りである。尚活着率は各試験区共95%内外であつた。

波野村挿木杉苗掘取測定成績表

試験種別	区別	全重量 ^g	幹重量 ^g	根重量 ^g	DR率	全長 ^{cm}	幹長 ^{cm}	根長 ^{cm}
(イ) 時期別挿付	4月挿	57.0	48.0	9.0	5.3	60	43	17
	5月挿	45.0	39.8	5.2	7.6	50	38	12
	6月挿	45.0	41.3	3.7	11.1	48	39	9
	7月挿	57.3	56.3	3.0	18.8	47	41	6
	8月挿	42.0	40.5	1.5	27.0	42	37	5
(ロ) 風土効果	風土	60.0	45.0	15.0	3.0	5.5	44	11
	普通挿	52.5	42.0	10.5	4.0	5.3	43	10
(ハ) 穂の年令別	1年生穂	37.8	34.5	5.3	6.5	47	38	11
	2年生穂	39.8	33.0	6.8	4.9	47	38	9
	3年生穂	78.8	63.4	15.4	4.1	54	44	10

備考 R = 根重量 T = 幹の重量

上の結果より考察すれば次のようである。

- (イ) 挿付の時期では4月挿付が幹及び根部の発育が最良で挿付時期の遅れる程成績が悪くなり8月挿付は最も不良である。此地方での挿付適季は3月下旬から4月下旬の間が適期と思う。
- (ロ) 盛土効果は本地方では普通盛土をせずに挿付けて相当の成績を上げているが、此試験結果からすれば盛土した方が若干苗木の生育が良好であったので盛土の効果はあるものゝように思はれる。因に盛土の高さは5寸前後がよい。
- (ハ) 穂の年令別では生産された苗木の優劣を判断する尺度として根と幹との重量比のVRを参照してみると、3年生穂は4/1、2年生穂は4/9、1年生穂は6/5で、3年生穂が最も優劣である。前(イ)及び(ロ)の結果を見て判断するように本地方ではVR率が6.0位迄は山出苗として可能と考えられる。即ち幹重量と根重量との比が6:1位迄が限度で、VR率が6.0より小となる程、良苗と云うことができる。

シナアブラギリ幼令林の施肥と 生長及び着果との関係(第2報)

九大農学部 宮 島 寛

H. Miyajima: — Relation between the growth and fruiting of Tongoil tree (*Aleurites Fordii*) and the nutrient elements. (2)

筆者はさきにアブラギリの造林育成はその雄実の生産を目標とし、目つそのためには林地に植栽された幼令樹の生長を促すことが当面の目的であるという想定の下に、その生長と林地に於ける施肥との関係について試験調査を行い、その一部は既に報告した通りである。今回はさきに報告したその後の経過を述べることとした。

試験地及び試験の方法

1. 試験地、既報のとおり。
2. 供試種子、播種及び植付、既報のとおり。
3. 試験区、既報のとおり / 試験区 $8 \times 8 = 64$ 本宛4箇の試験区合計256本であるが時日の経過に伴い枯損、風折れ等のため現在219本が残存し、其の他は補植を行つたため調査から除外した。
4. 肥料の種類、施用量及び施用方法、既報と同じ。第2年度も初年度と同様、1951年6月10日入梅直前に対照区、窒素区、磷酸区、加里区、黒加